

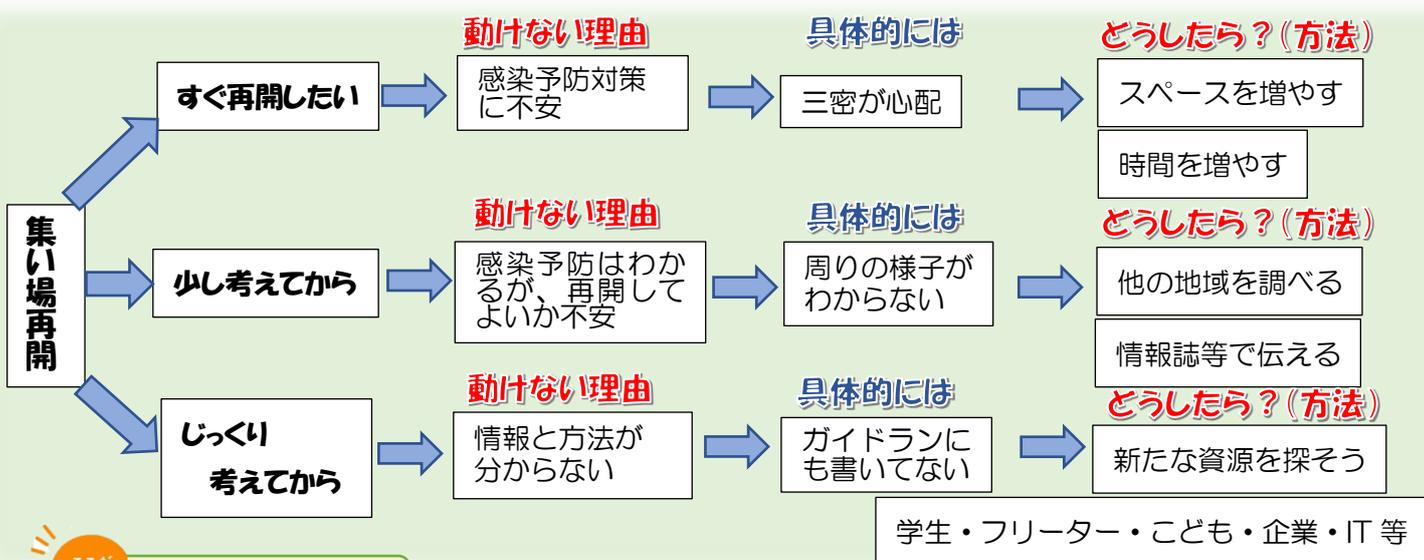
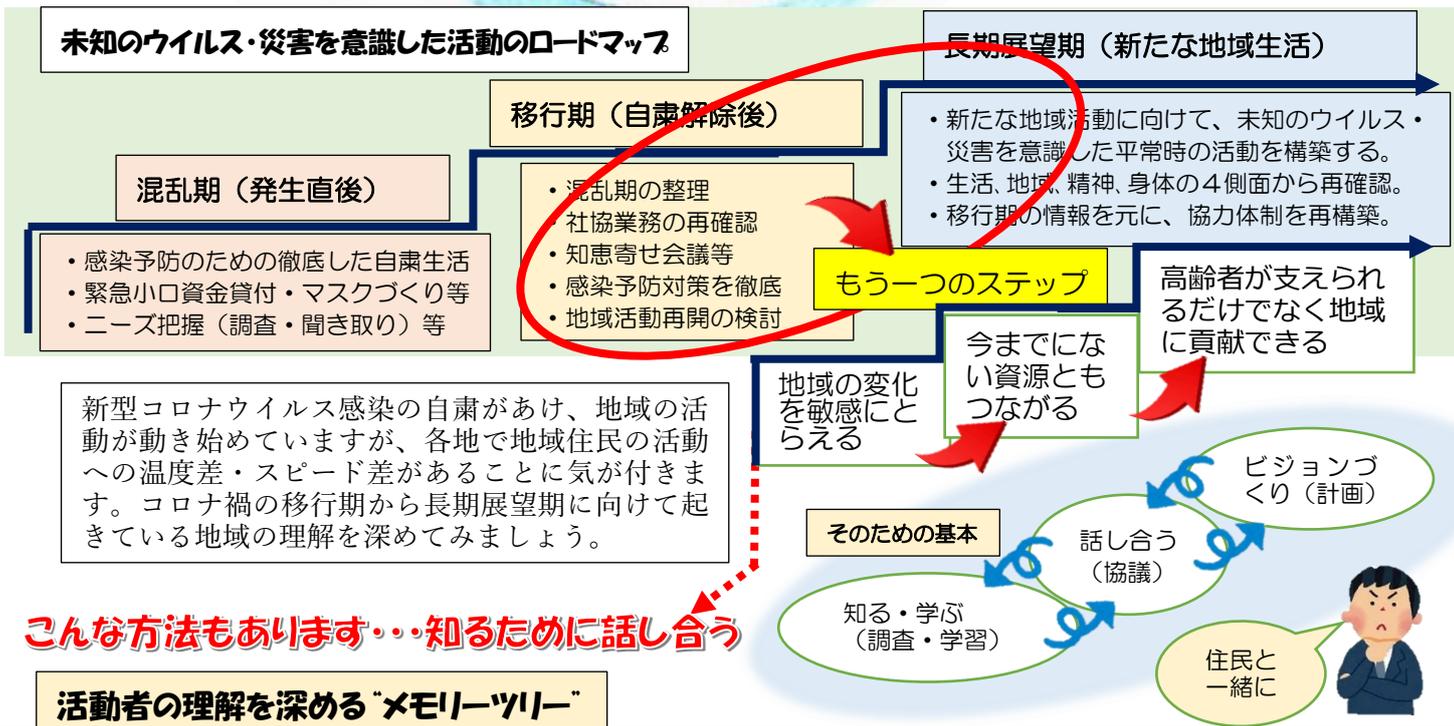
(縁・円・援)

兵庫えんだより



このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

～今こそ、地域の変化と多様性を理解し、つながろう～



ここがポイント メモリーツリーとは

一つのことの理解を深めるために「なぜ?」「なぜ?」と繰り返し探っていきます。そして、今度は解決方法を具体的にするために「どうしたら?」を5W1Hで考えていきます。住民と一緒に話し合ってみてください。

【発行元】(令和2年6月26日発行)
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297
E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当: 山下・永坂)

すぐ再開したい

住民発！まちに待ったサロン再開のために(たつの市社協)

サロン世話人さんたちは、5月末、周囲から不安な訴えをきき「サロンを開けよう」と決めましたが、狭い公民館は三密になる。そこで、総会等に利用する2階も借りられないか自治会長に頼みにいきます。生活支援コーディネーターの後押しもあり2階の開放を承諾されると、世話人さんたちは、手書きのチラシに「今回はマスクをきてください」とさりげなく感染予防を呼びかけます。サロンの時間は決めずにいつ来てもOK。1階2階の行ききもOKと自分たちでルールを決めて6月1日スピード再開しました。当日は、近隣から野菜や苗の差し入れもありで大盛況でした。



少し考えてから

「答えが出ない不安…」復活させた情報誌で動き出す!(養父市社協)

養父市社協では、平成21年から23年まで発行していた手書きのマンガが評判だった福祉連絡会の取り組みの情報誌「ねっとわ〜く」を復活させました。

住民は「サロンを再開していきたいが…」といった漠然とした不安を抱いていました。悩みを聞いていたコーディネーターは、他地域の取組を知らせるため、情報誌「ねっとわ〜く」の復活を決めます。「ねっとわ〜く」の記事をみた住民も「そうか、どこも同じだな」と安心してサロン開催準備を進めています。また、記事に取り上げられた関係者は記事掲載を喜び、「こんな風になったよ」と、記事の活動の進展を報告に来てくださいます。



復活した「ねっとわ〜く」

じっくり考えてから

困った! ガイドラインにない悩みがある(姫路市社協)

姫路市社協では、市内概ね小学校区ごとの「社協支部」に一月間の準備期間を設定し、サロンなどの活動再開までの話し合う機会を取っています。そこにはガイドラインにない数多くの活動者の悩みもありました。

集い場ガイドライン	活動者の悩みの一部
一人ひとりの基本的感染対策	○席を離すと「おしゃべり」ができない。
「通いの場」すべての種別で注意すべきポイント	○感染予防の周知が負担。 ○非接触型体温計は欠品 ○食器・おもちゃ等の消毒が困難
「通いの場」種別ごとに注意すべきポイント(体操・サロン等)	○飲食で常時マスクは難しい。 ○人数を減らすと集える場として機能しない。

ガイドラインにはない悩み

- 外出支援
- 買い物支援
- 世代間交流(運動会、地域の祭り等)



ほかの地域でこんなことを見つけました!

- 学生の街、西宮では生活支援コーディネーターが学生寮を訪問し、孤立し誰にも相談できない学生と企業をつなぐ取り組みをしています。
- コロナ禍でバイトや仕事が減ったフリーターの方や学生の声を聴く機会を持つてはいかがでしょうか。※参考: ケアプロの学生調査 (<https://dococare.com/news/252/>)
- 昔遊びなど、子育て支援の場で、知恵を発揮頂けないでしょうか。
- 反対に三木市では、中学生にスマホ教室の講師を依頼して、新たな知識とつながりの大切さを考えるきっかけにしました。

ほかの地域でこんなことを見つけました!

- 新温泉町で糸電話による「おしゃべり」の試み。
- 飲食店の感染予防の工夫、学校・幼稚園・保育所の給食風景等をみてはいかがでしょうか。
- 難しい感染対策は保健師さんに住民流で教えてもらいましょう。
- 掃除や消毒をレクやリハビリにしませんか。

【編集後記】

今回は、地域の始動を取り上げてみました。だれもが迷っているときだからこそ、私たちが、学び、話し合い、動きながら考え、今までになかった視点、今までになかったつながりを意識してみましよう。